コガタノゲンゴロウ　*Cybister tripunctatus lateralis* Fabricius

【選定理由】

1950年代までは各水域に見られたが、1960年中頃以降まったく生息情報がないことから絶滅と判定した。全国的にも非常に少なくなり、現在本州での生息地は数えるほどしか残されていない。また、残された生息地でもオオクチバスなどの外来魚の捕食圧が大きな脅威となっている。

名古屋市守山区吉根, 1959年, 森部一雄 採集,
豊橋市自然史博物館蔵

【形　態】

体長24～29mm。体系は長卵形でやや扁平。背面は緑色あるいは褐色を帯びた黒色で強い光沢がある。頭楯、上唇、前胸背および上翅の側縁は黄色。体下面は暗赤褐色で、腹部3～5節の側方に黄褐小紋を有する。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市港区土古（1942年採集）、名古屋市守山区（1959年採集）、蒲郡市（1949年）の記録が残されており、かつては平野部を中心に広く分布していたことが推測される。1960年中頃以降記録がない。

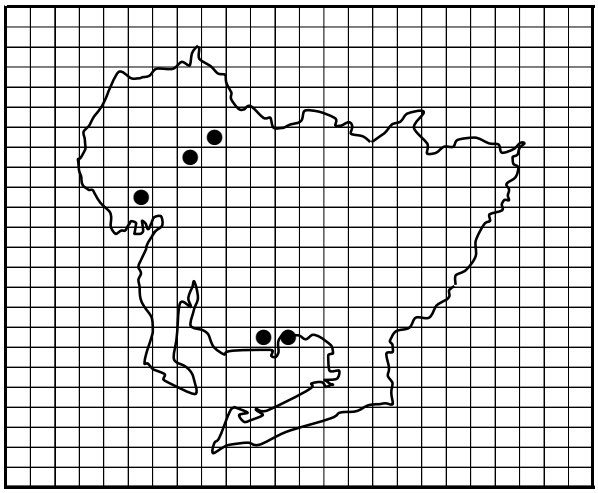
【国内の分布】

本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島。

【世界の分布】

台湾、中国、朝鮮半島。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

平野部の水田をはじめとする水域に普通であった。南方系の種として、夏期に南からの供給によって増殖していた可能性があり、はたして愛知県内で越冬できていたのかも不明のままである。

【現在の生息状況／減少の要因】

1950年代までは各水域に見られたが、1960年中頃以降まったく生息情報がない。1960年代からの農薬の大量使用、圃場整備等による生息地の消失と併せて、温暖な海岸線近くの水域が失われたことが、南方系の本種の個体群の維持や分布の拡散に支障をきたし、急激な減少の大きな要因になったのではないかと推定されるが、実状は解明されていない。現在でも南西諸島ではよく見られ適応環境も広い。

【保全上の留意点】

侵略的外来種を根絶し、各種水域の自然環境を回復することによって、どこかに残存している個体による復元を待つ以外ない。他の水生昆虫類も最近では回復の兆しが見え始めているので期待したい。遺伝的な多様性については詳しい研究がなされていないので、安易な移入による人為的な回復を図るのは禁物である。

【関連文献】

長谷川道明, 2002. 豊橋市自然史博物館所蔵森部一雄コレクションに含まれる重要な愛知県産甲虫類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (12): 49-53.

長谷川道明, 2017. 豊橋市自然史博物館に新たに収集された東海地方産絶滅危惧甲虫の標本について. 豊橋市自然史博物館研究報告, (27): 31-35.

（長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希）